

中野特別支援学校交流だより

◆東京大学附属中等教育学校との交流会

12月17日東大附属3, 4年20名と高等部3年38名の交流が行われました。今年で2回目になります。去年はA組のみでしたが、今年は全学年で行いました。

東大附属では、3・4年の生徒が総合的な学習で共生について様々な角度から学んでいます。具体的にはユニバーサルデザインやバリアフリーといった概念の違いを考えたり、高齢者体験をしたり、障害のある方と交流したり体験を通し、学びを深めています。

学校紹介

各校が学校の紹介をしました。



クラス交流

東大附属が作ったすごろくを使って交流をしました。すごろくの答えから会話が広がり、楽しむことができました。



ダンス・ボッチャ交流

トラブルメーカーを踊り、ボッチャの交流をしました。

ボッチャではいいボールが投げられると歓声が上がったり、ガッツポーズがでたりしていました。



VOICE ～交流校の担当の先生より～

今回の交流学习に参加し、普段は人見知りで消極的な東大附属の生徒たちが、中野特支の生徒さんの社交性や積極性を見て、お互いにとても良い刺激になっていると感じました。また、「その人が出来る事を、時間をかけて待つ事」の重要性を改めて勉強出来ました。こういった交流学习の時間が、これからも継続的に行えるといいなと思いました。

東大附属 山本奈緒子

各クラスでの交流では、すごろくが、誰でも自分の興味を伝えられる内容となっていたため、互いを理解するためのツールとして、最適なものであったと思いました。クラスでの交流時間をもう少し確保できると、ボッチャでもさらに交流を深めることができると思いました。交流学习は、双方にとって大変有意義の時間になると感じたため、継続して交流できるとよいと感じました。

東大附属 宮内 貴圭

全学年で交流を行いました。互いに協力し合い、良い交流会となりました。東大はこの日のためにボッチャの練習をしてきてくれたそうです。 中野特別支援学校 小林 晴美

発行 東京都立中野特別支援学校

校長 山賀 出穂

担当主幹 安住 幸彦